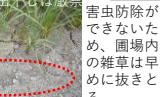


JA 越前たけふ
丹南農林総合事務所
越前市南越前町特別栽培
農産物生産者協議会

月旬別	2023年		2024年																							
	10月		4月			5月			6月			7月			8月			9月								
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬								
時 期	土づくり		農閑期		育苗期			田植期、活着期			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			出穂期			登熟期			収穫期
水管理	秋の田起こし 稲わらの踏み込み 作土深15cm以上 稲わらの踏み込み 土づくり		湛水管理			荒おこし			代掻き 田植え			現地検査 除草剤散布 中干し延期			中干し			幼穂形成期から間断通水 徐々に地固め			現地検査					
管理作業の要点	スタートは土づくりから  来年度へ向けて土づくり ケイカル500kg/10aもしくは しきふホワイト100kg/10a散布		 表示板の設置 種子の温湯消毒後直ちに浸漬 (JAへ必要量を注文)  種子温湯消毒 播種時に化学肥料入り床土、ダコニールや苗箱薬剤を使用しない!			 育苗 田植え同時もしくはノビエ2.5葉期までに除草剤ゼータタイガー剤を散布 播種時に化学肥料入り床土、ダコニールや苗箱薬剤を使用しない!			 田植後は浅水管理で分げつ促進。水稻の生育に合わせて除草対策のため深水管理  深水管理			 田植後1ヶ月後に軽く田干し 最高分げつ期 茎数が25本/株あれば十分			 穂肥の施用 有機肥料のため、効果が出るまで約1週間かかる 7月10日頃に中干し 幼穂形成期の確認(通常は2mm)  始めの田干しは厳禁 害虫防除ができないため、圃場内の雑草は早めに抜く			 適期刈取 青刈割合10～15% 稲水分20～25%  ヒエ、クサネム除 通常米と区分して			 選別網、流量を適正に 選別機による調整					
	ラウンドアップ等の除草剤は畦畔等を含めて使用しない		①化学合成農薬の使用を低減する技術 生き物や環境を育む活動 「ふゆみずたんぼ」冬期湛水(2ヶ月以上) 秋の田起こし 作土深15cm以上 次年度に向けて土づくり資材の散布 ケイカル500kg/10aもしくは しきふホワイト100kg/10a			②土づくりに関する技術 (堆肥等有機質資材施用技術) 水溫60℃で10分間浸漬消毒 (浸漬消毒後、直ちに冷却) ミネラルPK 60kg (-kg) ケイフン 100kg (5.8～8.7kg)			③化学肥料の使用を低減する技術 (有機質肥料施用技術) 基肥 HG有機666 (60kg/10a) 白未熟粒防止対策(適期田植え) 全量 5月18日以降の田植え (50kg/60kg/坪程度)			除草剤 ゼータタイガー1*粒剤散布 (1kg/10a) ④化学肥料の使用を低減する技術 (有機質肥料施用技術) 基肥 HG有機666 (60kg/10a) 白未熟粒防止対策(適期田植え) 全量 5月18日以降の田植え (50kg/60kg/坪程度)			1回目の穂肥 (幼穂形成期 出穂30日前) 中干し 一斉草刈りデー(7月上旬) 中干し延期 軽く田干し 一斉草刈りデー(6月下旬)			畦畔と圃場内の除草徹底 間断通水をしながらも徐々に地面を硬くする 2回目の穂肥 (1回目の7日後 幼穂長2mm) 1回目の穂肥 (幼穂形成期 出穂30日前) 中干し 一斉草刈りデー(7月上旬) 中干し延期 軽く田干し 一斉草刈りデー(6月下旬)			フェーン時は予め入水、根の活性化を図る 白未熟粒・胴割粒防止対策 間断通水 (収穫2日～3日前まで) 選別網、流量を適正に 選別機による調整					
	イネ科雑草の穂につくカメシ		イネ科雑草の穂につくカメシ			イネ科雑草の穂につくカメシ			イネ科雑草の穂につくカメシ			イネ科雑草の穂につくカメシ			イネ科雑草の穂につくカメシ			イネ科雑草の穂につくカメシ			イネ科雑草の穂につくカメシ					
肥料	主な施肥体系 (10%あたり)		肥料窒素量合計 (ケイフン・床土を除く) 7.1～7.8kg 内化学肥料窒素 不使用																							
農薬	農薬の使用回数 指定除草剤1回のみ		節減対象 農薬成分 合計 3 成分																							
			(除草剤) ゼータタイガー1*粒剤 (3成分)																							